

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 北川辺とまと研究会
都道府県 埼玉県
対象地域 加須市（北川辺地区）
対象品目 トマト（施設）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

加須市北川辺地域は、県内有数の施設トマトの産地であり、市場出荷を中心として生産を行っている。本地域では、土壌くん蒸剤等による消毒を慣行として行っていたが、環境への負荷や作業者の安全性を鑑み現在は太陽熱消毒へ切り替わっている。しかし、効果の面で病害への対策が不十分となっており、土壌病害が多発し、薬剤を使用した防除に戻す動きがあるほか、一部では現在も薬剤を使用した土壌消毒が行われており、環境への負荷が問題となっている。

そこで環境に優しい土壌還元消毒技術の導入、普及推進により、環境負荷低減及び持続的な産地の育成を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	← 収穫 →						← 定植 →			← 収穫 →			
技術名				太陽熱消毒及び化学薬剤による土壌消毒									

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	← 収穫 →						← 定植 →			← 収穫 →			
技術名				土壌還元消毒									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	6 ▶ 6		
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1.5 ▶ 2		
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1.5 ▶ 2		
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1.5 ▶ 2		

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	太陽熱消毒及び化学農薬による土壌消毒	▶ 土壌還元消毒	化学農薬の使用回数の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	土壌消毒における化学農薬の使用回数（回）	1	▶ 0	クロルピクリン剤やダゾメット剤1回→0回

- * 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
- * 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

土壌還元消毒を含むIPM技術導入を推進し、IPMに対する意識醸成を図る。
関係機関と連携し、栽培講習会などを通じて技術的な指導をする。

関係者の役割

関係者名	JAほくさい	北川辺とまと研究会	埼玉県加須農林振興センター	
役割	情報提供・技術指導	技術導入、実践	情報提供・技術指導	